

製品名: β カテニン (リン酸化 Thr41/Ser45) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21193**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	ホスホ
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:86kD;Observed MW:92kD

抗原情報

遺伝子名	CTNNB1
別名	CTNNB1;CTNNB;OK/SW-cl.35;Catenin beta-1;Beta-catenin
遺伝子 ID	1499.0
SwissProt ID	P35222
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

背景

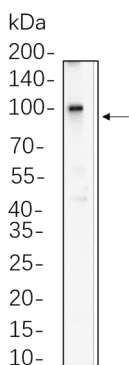
細胞局在: 膜、細胞質。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、接着結合 (AJ) を構成するタンパク質複合体の一部である。AJ は、細胞増殖と細胞間の接着を調節することにより、上皮細胞層の形成と維持に不可欠である。また、このタンパク質はアク

チン細胞骨格を固定し、上皮シートが完成した時点で細胞分裂を停止させる接触阻害シグナルの伝達を担っている可能性がある。最終的に、このタンパク質は、大腸腺腫性ポリポシスにおいて変異する APC 遺伝子産物に結合する。この遺伝子の変異は、大腸がん (CRC)、毛様上皮腫 (PTR)、髄芽腫 (MDB)、および卵巣がんの原因となる。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2016年8月]

研究分野

-

画像データ



SW620 全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、膜を β カテニン (リン酸化 Thr41/Ser45) ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でブロットニングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。